

特集

進化する外科教育と 手術トレーニング

現在管理者の立場にいる外科医の on the job training のひとつは視野が不十分ななかでひたすら鉤を引くというものであり、術者の位置からの術野は手術を執刀しない限り見ることはできなかった。そのため当時は手術書を読み図や文章で知識をカバーしながら手術を学んだ。

現在では執刀医の見る術野をその場にいる全員が共有でき、教材としても多くの動画が入手可能であり、先進的なトレーニング手段も次々に生み出されている。加えて、指導医が「教師」の資格を持っているわけではないのは今も昔も同じとは言え、外科医が教えること、すなわち「外科教育学」はこのところ多くの賛同者を得て盛り上がりを見せている分野であり、その中心は外科医としての自分の専門領域をしっかりとこなしながら教育にも熱い思いを持つ医師たちである。こうした新しい外科教育のメリットを享受する若手医師も、わずかな間に教える側に回る運命にある。外科教育学を知り、最先端のトレーニング方法に関心を持っていただくべく、本特集を企画した。